

H27 赤阪小学校を改善していくための提案まとめ

※保護者の皆様より頂いた全てのご意見についてお答えしたいと思います。ご意見につきましてはほぼ原文通りの表現にさせていただいております。

●「毎日楽しく通えて、とてもいいクラスだと思います。」

→<ご提案に対して>

評価をいただきありがとうございます。本校は小さな学校ですので、全教職員が全校児童をみるという視点で、よりよいクラスづくり、授業づくりを行い、全員が楽しく通える学校作りに努めてまいります。

●「いつもありがとうございます。冬の登下校でマフラーがだめなのが寒そうで、そこを改善してほしいと思いました。」

→<ご提案に対して>

昨年度も同様のご意見があり、昨年度の回答では「学校のきまりではマフラーは危険を伴うので禁止としております。ネックウォーマーも首に巻くものとして同様に取り扱わせていただいています。もし、健康上の理由で特別な事情がございましたら担任にご相談ください。」とさせていたいただきました。ただ、寒い時期の登下校時など、首もとを温めることで、身体をスムーズに動かせることもあるかと思いますので、本校生徒指導部会でも検討させていただきます。

●「英語の授業は、もっと身につくように授業をしてほしいです。英語の授業があるという表向きだけではなく内容のある授業をしない事には英語を取り入れる意味がないのではと思います。」

→<ご提案に対して>

本村の小学校は、現在、文部科学省から「教育課程特例校」の指定をうけて、一般的な教育課程では5年生、6年生だけで行うこととされる「外国語活動」を1年生から行い、評価をいただいております。

小学校学習指導要領「外国語活動」（平成20年3月文部科学省）では、小学校英語の目標として、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。」とあります。

これまで、中学校から始まる「外国語」学習では、初めての外国語ということもあり、「あいさつ」「自己紹介」などの初歩的な外国語に初めて接することとなり、同時に「聞く」「話す」という言語活動にも重点が置かれるため、「読む」「書く」を含めた4つの技能を一度に取り扱うことに指導上の難しさがあるとされてきました。そこで、小学校外国語活動においては「あいさつ」「自己紹介」等の活動から、外国語に「触れる」「体験する」という活動をふんだんに取り入れることにより、将来のコミュニケーション能力を育成するための素地を作ることを目的としており、そのような力が身につくよう、ALTとの打合せも密に行いながら授業づくりを進めております。小学校の経験が中学校になったときにも成果として表れていると聞いております。そのようなねらいをもった学習活動について、ご理解いただければと思っております。

●「アンケートなのに名前は必要でしょうか。」

→<ご提案に対して>

本校では、この記述式の「赤阪小学校を改善していくための提案」のみ記名をお願いしております。内容によっては、すぐに個別で、もう少し詳しくお話を伺ったり、何らかの対応しなければならない内容もある場合もあるかと思われます。そのために、記名をお願いしておりますのでご了解ください。

●「マラソン大会、金剛登山（毎年）やったらどうでしょうか？ かけ足タイムも年々、中途半端な取り組みになっているように感じます。比較して申し訳ありませんが、千早小吹台小は行事として毎年あるのに赤小はどうして出来ないのかが分かりません。検討お願いします。」

→<ご提案に対して>

マラソン等の持久走や大会として実施する教育的効果はあると思います。ただ、本校のまわりは、役場やくすのきホール、道の駅などの主要な道路が多く、交通事情を考えますと、安全にマラソン大会を行うコースの設定が難しいと考えております。そのためにも、大会実施は難しいですが、かけ足タイムの充実をめざしていきたい思いです。本年度は天候の関係で、なかなか予定通り、かけ足タイムが実施できず、来年度の取り組み方について、大きな課題として認識しています。実施時期も含め、取り組み方法を十分に検討いたします。

毎年の金剛山登山実施についてです。本校では、現在、春の遠足として3年に1回、全校児童での登山を行っております。「春の遠足」は、単なる校外学習ではなく、縦割り班（わんぱく班）で、異学年が力を合わせて活動するという位置づけで、できるだけ多様な活動場所を想定し、取り組みを進めております。また、行事としての別枠での設定については、本校の特別活動や体育的行事の年間の取り組み時間においても、難しい状況です。

以上、併せまして、ご理解いただきますようお願いいたします。

●「千早小吹台小に比べて、細かなきまり事が多く、息苦しく感じます。何事も先手でダメ！！だといわれることが多い」

→<ご提案に対して>

「学校は社会の縮図」と、よく言われます。集団生活の営みを通して学ぶ力も小学校教育における大きな要素の一つです。集団での活動には、ルールや決まり、約束事などが生まれます。また、学習に関わる道具や学習方法を一定揃えていく決まり等もあります。子どもたちの学力定着や望ましい集団生活に向けた環境を整えるねらいで行っています。ただ、決まりだから守るという事ではなく、子どもたちがそれらの内容を理解したり、さらに子どもたちが主体的に決まりや約束事に関わったりしながら決まりをまもった生活をしていけるような状況を創りだすことが重要だと考えています。現在も学校生活や長期休業中の約束事については、代表委員が中心となって話し合いながら自分たちで決まりを考えることなどにも取り組んでいます。また、出来るだけ、子どもたちの現状や子どもたちを取り巻く環境を踏まえ、毎年、ルールや約束事についての検討や見直しも行っております。もちろん、学校という場は、子どもたちを伸び伸び育てていくことも大切でありますので、そのような点を十分に踏まえながら、本校の教育を進めていきたいと思っております。

- 「先生方の活気が感じられなくなっているように思います。以前、赤小にいた先生たちは子どもたちと休けい時間なども外に出て接し、授業中だけでなく、コミュニケーションをとってくれていました。小学生があいてなので、まだまだ遊びを通じて子どもたちとコミュニケーションをとって頂きたいです。」

→<ご提案に対して>

休憩時間などでの子どもたちの関わりは、授業では、なかなか取ることのできないコミュニケーションの場であると思います。遊びを通じての子どもたちとの触れ合いも教育として大きな意義があり、大切にしていきたいと思います。ただ、休憩時間中にしかできない次の授業の準備や、生活指導面や学習面での個別の子どもたちへの対応もあり、なかなか時間をとることが難しい状況であることもご理解願います。

- 「若い先生の指導を経験のある先生がしっかりしてほしいです。経験の浅い先生方は気付きが少なかったり、子どもたちの様子をしっかりと見てもらえていないように感じた1年でした。教科担当になっていた先生に補助的にクラスに入れる時間には入って欲しいと何度か伝えましたが、対応してくれている様子がなく残念でした。」

→<ご提案に対して>

多くの職種で経験値の大小は、仕事を進める上で大きな要素の一つだと思います。特に教師は、すぐに子どもたちを目の前にして、責任をもった仕事をしなければなりません。もちろん、若いということは、子どもたちと年齢の近いというよさを生かすこともできますが、日々の授業実践や教育的な気付きの視点等については、保護者の方々が不安に感じられる部分も当然あると思います。経験の浅い教員には、当初は、可能な限り、授業中の様子を他の職員で参観し、助言指導も行いましたが、長期的には、担任外での教科担当者等も担任と同じくらいの授業数を担っており、手厚い対応が困難な状況でした。ただ、休み時間や放課後の時間には、教材研究や教材準備、学級経営などについて、周りの教員が積極的に相談にのるなど、支援体制の充実に努めてきました。今後も、我々教職員は研修に努め、また実践の交流を通して力量を高め、本校全体として子どもたちを育てていく姿勢を大切にしていきますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

- 「ホームページは、ほぼ毎日見ています。我が子を見つけるのが楽しみです。他学年の行事も知る事が出来るのが良いです。」

→<ご提案に対して>

ありがとうございます。出来るだけ、学校教育活動や子どもたちの様子をお伝えできればと思っています。今後とも、ホームページを通じて、情報発信に努めていきたい思います。

- 「学級委員に、どんなかたちであれ選出されたのであれば、事情は色々あるとはいえ、実行委員や各委員の打合せには出席すべきだと思います。このままのかたちで良いのでしょうか？きちんと出席されている委員さんから不満が出るのは当り前のことだと思います。」

→<ご提案に対して>

P T A活動は、学校教育への支援とともにP T A会員同士のよりよい人間関係の構築や、会員相互の情報交換等を通じての子育て学習、他の社会教育関係団体との交流による子どもの育つよい環境づくりなどが目的です。

そのような趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いするしかありません。

委員になられましたら、何かとお忙しいとは思いますが、子どもたちのためにできる範囲でご協力をよろしくお願いいたします。